

第九たいむず



No.31 2009.1.8

通刊822担当 M

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX: 027-323-0233 (団長渡辺) 携帯電話: 090-1828-8052 (事務局長小野里)

あけましておめでとうございます

昨年の演奏会はいかがでしたでしょうか？ 今年の演奏は何がちがった！とても良かった！うれしい声をたくさんいただきました。皆さんはどんな感想をいただいたでしょうか？アンケートもたくさん回収されています。いろいろな意見が寄せられていますので是非、目を通してみてください！また、去年は、梅田先生に、たくさんの課題を頂きましたね。赤羽先生、始め指導者の先生に頼るのではなく自分自身の課題として頭に置き、今年も練習に励みましょう！！



©井田写真館

♪クリスマス会 2008年12月23日 ホテルナガイ「雪園(せつえん)」にて

県庁でのクリスマスフェスタで大合唱を終え、一行は2008年最後のイベントであるクリスマス会へ。20日の演奏会の大成功を祝って、約30名の参加者が美味しい中華を食べ、飲んで、歌って、騒ぎました！ギター持参の外処さんご夫婦の歌や、男声コーラス、そして持ち寄ったプレゼント交換で、楽しい夜を過ごしました。

500円相当のプレゼントの交換をして、全員が発表しあったのですが、温かい手紙やカードがついた物とか、面白グッズが出てきて、大変盛り上がりました！

敦史さんのギターで歌う外処さんご夫妻。いつもアツアツです！→



♪メイコンサートの楽譜(2冊)を販売します(1月15日(木)より)

日本の歌 200円 (海外公演練習にも使います)

オペラ「雪娘」300円 (グリチン・イリヤ和訳)

＃グリチン・イリヤくんによって和訳され、ユリヤによって書かれた楽譜をソプラノ新井祐美子さんが徹夜で印刷用原本を作り、有志で製本しました。購入されたら、すぐに名前を書いて大事にしてくださいね！

♪2009年5月24日メイコンサート(来週より練習)

1ステージ: 日本の唄

2ステージ: 大山亜紀子さん(ソプラノ)によるステージ(群馬県出身・第74回日本音楽コンクール2位)

3ステージ: オペラ「雪娘」(リムスキー・コルサコフ作曲) (日本語初公演！！)

リムスキー・コルサコフについて詳しくは (<http://korsinka.hp.infoseek.co.jp/nark/nrklife.html>)

♪第6回海外公演発声式1月18日(日)音楽センター会議室(受付に申込書有)

2009年10月23日～31日(9日間) 公演先: スロヴェニア(10月28日演奏会)

発声式: 2009年1月18日(日)音楽センター会議室13:30より 以後、月一度の練習。

2月はシンフォニーホール(音楽センター裏、市役所の斜め前)

3月～5月は高崎市中央公民館

*筆記用具、第九の楽譜、日本の歌の楽譜、旅行申込書、申込金 をお持ちください。

(申込書はなるべく記入の上、お持ちいただきますようお願いいたします。)



2009年10月28日
←第6回海外公演会場→
スロヴェニア共和国の
首都リュブリャナ市
RTV国営放送オーケストラ
ツアーに、イタリアの
ローマ・パチカン込み！
地元合唱団と演奏会有



♪今後の予定

- ・1月15日(木) 通常練習(教会)
- ・1月18日(日) 海外公演 発声式(音楽センター会議室)
- ・2月22日(日) すみだ5000人第九(参加者のみ)
- ・5月24日(日) メイコンサート(音楽センター)

♪コンサート情報・行事情報

☆高崎・安中地域フェスティバル

2009年1月18日(日) 高崎市文化会館 10:00開演 入場無料

* 例年と同様に高崎能楽会が参加します。その中の高崎観和会(観世流)が連吟で「高砂」を謡います。12:15~12:35に出演します。高砂はおめでたい謡(うたい)として謡われますが、今回は待謡の「高砂や。この浦船に。。。」から最後まで謡います。バス 安達

バス安達さんが
紋付袴でご出演♪

☆合唱団葡萄 第7回演奏会 ←チケットはテノール太田まで

2009年2月11日(水・祝) 前橋市文化会館 小ホール 13:30開場、14:00開演 全席自由1000円

指揮: 八木淳一 →イギリスの音楽(ルネッサンス期の宗教音楽、マドリガル、民謡他)

片山みゆき→近代日本名歌抄(委嘱初演、編曲: 信長貴富、ゴンドラの唄・カチューシャの唄他)他

①合唱のスタンダード的なイギリスの曲、②皆様にも親しみある大正・昭和時代の日本の名曲を信長貴富さん編曲で、③そして演出付きのシアターピースと、大きく毛色の異なるステージ構成です。

☆オペラの幻影～歌劇の大作曲家による室内楽の夕べ～ ←チケットはユリヤまで

2009年3月11日(水) 前橋テルサ 18:30開場 19:00開演 全席自由 一般1500円 学生800円

出演: ユリヤ・レヴ、レオニード・グリチン他群響首席奏者

♪「雪娘」あらすじ ①プロローグ (次回は第一幕)

(http://homepage3.nifty.com/classic-air/database/korsakov/snegurochka_syp.html より引用)

ベレンディの都が遠くに見える雪に覆われた赤の丘

春の訪れを告げる鶏の声に森の精は冬の夜の見張り番を終え、ねぐらの樹の洞穴に入っていく。コウノトリや白鳥、野鴨にひかれて春の精が現れるが、春の精は自分がやってきてもこの地が暖かくならないので『これは私が南国の谷間に見るものとは違うわ』を歌う。

この地の春の訪れが遅いのは、16年前に彼女が氷爺と恋に落ち、彼との間に雪娘を産んでしまい、その為に氷爺と別れることが出来ないからと物語り、小鳥達に慰めて欲しいと言う。小鳥達は歌い踊るが、突然、寒気が襲うので、春の精は氷爺がやって来る事を知って、小鳥達に隠れるように注意する。

氷爺は人々を寒がらせると歌い現れる。それを聴いた春の精は、もう十分でしょうから北国へお帰りなさいとたしなめる。氷爺はそんなに急かすなと言う。春の精が自分達の娘も年頃になったからそろそろ自由にあげましょう。という言葉に頷きながらも、太陽が娘を亡き者にしてしまう危険を語る。そして、娘が純真でいるうちは太陽も手出しが出来ないが、もし彼女が恋心を持つと危険であると言う。その為には信用のおける人たちに彼女を預ける必要があると言って、それには村人のポビル夫妻が良いと言うので、春の精はこれに賛成する。

氷爺が雪娘を呼ぶと、彼女は森の中から現れる。彼女は人間の世界に憧れているので、氷爺はその理由を聞く。雪娘は『友達と苺を摘みに行った時』を歌い、羊飼いの若者ルールに憧れている事を告げる。驚く氷爺の心配をよそに、春の精は娘の成長を喜び、娘に向かって何か困ったことや悲しいことがあったらヤリ口の谷に来て私を呼びなさいと言う。氷爺は森の精に向かって、娘に近寄る男を皆追い払うように命じる。その時村人達の合唱が聴こえるので、両親は森に姿を消す。雪娘も茂みに隠れる。

ベレンディの人びとは謝肉祭(カーニバル)に別れを告げて春の訪れを喜んで大合唱をする。皆が祭りを終え村に戻ろうとすると、ポビルは祭りの終わりを残念がり森のほうに歩き始める。そして茂みの中に雪娘を見つける。村人達もやって来て、真っ白な毛皮のコートを着た雪娘を見て驚く。彼女の素性を問いただすポビルに雪娘は「私はスニェグーロチカ、雪娘、どこにも行くところが無いので養女にして下さい。」と言う。ポビル夫妻は喜んでそれをかなえる。皆が森を立ち去ろうとすると木々がお辞儀をして挨拶をする。